

小姓正吉の長女

前略申免下さしませ。いつとも無沙汰  
に打り過ぎ矢孔致して長ります。

皆称姉所おすさしをいとうやりますか。又日  
は美くカードと有頼う所さいます。

何かりお紙申上げて良しか。一寸お共暮  
かうがヌー。新まうてカードも矢孔して

しよんやしが。実はスイスに長りすした美  
姉(仲子)が昨年八月に病死致しました。

正明兄がモシカ多うの關係でもう三年程  
スイスに長ります。所存形と思ひますが。

皆健康で草々一杯に暮らして長りました  
と云う。昨(年)春頃より姉の腎臓で

病い一月も入院して長りすより良く  
たう。最近療養して長りましたと云う

又再発してしまひ再び入院。四五日のこと  
で帰らぬ人と云うてしまひました。

うちうの母は一時は作らせりと弱う  
しまひ毎日嘆き暮らして長りすは、暮の

二十三日にあちうの兄と子供達二人が姉の  
お骨下持ち帰り。二十六日に近くのお寺で

盛大に本葬儀を取行いすうてほつと  
新(母)とえ終て取戻すは。又のお墓

に納骨も済ませ一月の十三日に今度ほ

母も伴う四人して再びスイスへ帰る行き  
ました。 母にきて欲しく（兄が）電話

ありました。 母は孫達のために行き  
上りようとして即答したそうを聞きました。

兄もその声で聞かされた事を取り戻し  
少しは落着いたと語って長くなりました。

その移りかたを年老いた母が再び外国  
生活を送る中になり直明兄がまだ

一人のころに居りますので、私共一取四人  
（小さい二人は行きません）草子峠から越して

冬より早く、母達の帰ります直三四年  
留守着と兄の面削とみる中になりま  
した。

母が早くお知りですする程に申しかたはり  
すう程が皆が去る程に近は落着かない。又

あ正月早々この程に知らずにはいつか  
思ひ述べたにたいし、いまは又 炎日又

国際電話が入り、電話中にも母も元氣に  
居り仰る程に様子知りせず参りました。

他も下りり御安心下さりませ。 ありは  
寒い国に参るうちに室内はいつも千四

ほど大変暮らして良そうを聞きます。  
もしお暇のお序に、お話を聞かたり、次に

住所下あ知りせ申上作ます故あ手紙より  
あより頂けます水信女もいんばの喜ぶ  
事と申します。 あ暇の前は平年よりしく  
あ願ひ申上作ます。

語しが前後致し取り扱ひ文であ恥し  
限りてま平年一節判読下りませ。  
大乳致すましくた。

平年あ何程はいり皆々様にようしく  
あ位え下りませ。 昌子様はピアノの力

と申し続々遊ばさ水由子様は純粋  
でいらしやいますか。 定年主人も今高枝

の音楽教師を新し取り自宅で小さい子  
供も方にはピアノを教え取りコーラスなども  
新しと申します。

おはくはぐも片自居の程あ新し申  
上作ます。 ふきりへよりしく

一月二十日

かきこ

武田昌三様

小野屋登美子

Mrs. Kimi Kobayashi

Geneva, Switzerland